

# 平成30年度 学校自己評価システムシート (県立川越総合高等学校)

目指す学校像	農・食・環境・生活を基幹とした総合学科の特性を活かし、感性を磨く中で人間力を高め、総合的な学力の定着と向上を図る。
--------	---

重点目標	1 授業の工夫に努め、基礎学力の定着と向上を図る。 2 基本的な生活習慣の確立に努めるとともに、博愛と協調の精神を育む。 3 実践的な職業教育を推進し、夢のもてる進路実現を図る。 4 地域と保護者への積極的な情報提供を行い、一体的な教育を推進する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	9名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策	
1	<b>【現状】</b> 授業は静かに受け、真面目で与えられたことをしっかりこなすなど、学習態度の良い生徒がほとんどであるが、生徒は力を伸ばし切れていない <b>【課題】</b> 更なる学力向上に向け、生徒に対し現状に満足することなく自発的な学習態度を育成させるとともに、教職員の授業力向上を図る必要がある	教育課程の工夫と授業力の向上  総合的な学力の向上と学習習慣の育成	① 実効性のある教育課程の検討 ② わかる授業の推進と授業の質の充実  ① 授業への取組や授業外での学習の充実 ② 資格取得の奨励 ③ 外部教育力を活用した実践的教育の推進	① 教育課程改善のための具体的な課題と解決のための方策の洗い出しがされたか ② アンケートによる授業評価や相互の授業観察回数が向上したか  ① 授業満足度状況の向上及び授業外時間の活用が分析されたか ② 幅広い資格の取得や各資格の取得級及び合格者数の増減 ③ 実践的な教育活動を年20回以上実施できたか	教育課程の課題が共有され若干の改善が図れたが、授業力向上は成果が出ていない。 ①課題研究の選択科目化を実施した。 ②年3回の授業公開を実施し、教員相互の授業力向上に努めたが、アンケート結果では成果が出ていない。  基礎基本重視しつつ、総合的な学力の向上を図ったが、学習習慣の確立までには至っていない。 ①授業満足度を高めるまでには至らず、授業外時間の学習は定着していない。 ②英検2級5人、準2級17人合格(過去最高)漢検2級3人、技能国家資格3級2名合格 ③実践的な教育活動は延べ34回実施することができた。	B	①ブロック表の見直しを含め、新学習指導要領に対応できる教育課程を引続き検討していく必要がある。 ②現状を素直に受け止め、分析し、組織的な授業力向上のため手立てを具体化する必要がある。  ①生徒の授業満足度の肯定回答が7割以上になることを目指し、分かる授業を徹底するとともに、主体的な学習をさせる具体的な取り組みを実施する。 ②意欲のある生徒への手厚い指導を継続させ資格検定の実績を向上させるとともに、受検者数の増加を図る。 ③引続き実践的な教育を学校全体で取り組んでいく。
2	<b>【現状】</b> 学校全体で挨拶を励行し、明るくより良い人間関係づくりに向け取り組んでいる <b>【課題】</b> 安心・安全な学校生活に向け、生徒個々の実態に応じた組織的な対応と、全体的な共通意識の構築を図る必要がある	豊かな心の育成と安心・安全な環境づくりの推進	① いじめ根絶に向けた組織的な指導 ② 教育相談の視点に立った指導体制の充実 ③ 挨拶と規律を重んじた指導体制の徹底	① 生徒・保護者からの相談件数及び学校満足度数の増減 ② 組織的な指導体制の確立や情報共有、及び外部サポートを有効に活用できたか ③ 生徒・教員のアンケート結果や問題件数などの数値の増減	安心・安全な教育環境づくりはほぼ達成され、生徒の心の育成にも繋がったと思われる。 ①組織的な対応でいじめの未然防止が図れ、2回実施したアンケート結果からいじめ件数0を達成した。 ②教育相談委員会を複数回開催して情報共有し、外部サポートも含め手厚い指導に繋がった。 ③体罰件数0であり、挨拶励行も絡めた立哨指導の成果から、問題件数は殆どない。	A	①引続きいじめ根絶を目指し、計画的で組織的に、共通理解を持って取り組んでいく。 ②教育相談の視点を学校として重視し、生徒一人一人に合った指導を心掛け、情報共有と組織的対応を引続き行っていく。 ③生徒・保護者・教職員が安心して過ごせる学校教育を目指し、規律の徹底と挨拶を推進していく。
3	<b>【現状】</b> 今の実力で合格できる進路先や実績のある進路先を選ぶ生徒が多く、進路選択の幅を広げるために実力を高めようとする者が少ない。 <b>【課題】</b> 明確な進路目標に向かって努力する生徒の育成や環境づくり、及び生徒をバックアップする指導体制づくりが必要である。	組織的な進路指導体制の充実と多様な進路への対応	① キャリア教育の充実に向けた「産業社会と人間」及び「総合的な学習の時間」の有機的な連携 ② 教科や学年指導とリンクした進路指導の推進と進路実績の向上	① 段階的・系統的な進路指導の確立と、生徒・保護者の満足度及び進路実績が向上されたか ② 実践的な教育と生徒の実態を踏まえ、希望進路の実現に結びついたか	学年と進路指導部が連携を密にし、希望に沿った進路決定に繋げることができた。 ①「産社」総学は計画通り実施。生徒や保護者の満足度も例年と同程度であった。例年より就職者が多く進学者が少ない年となったが、どの分野も丁寧な指導の効果から満足いく結果が出せた。 ②校外実習経験者が関係分野に就職 農業関係進学者7名合格(3/12現在) 国家公務員1名合格 その他授業と関連した部門への進路先に進む生徒がほとんどであった。	A	①引続き生徒の希望に沿った進路指導を学年・進路指導部の連携を強化して行うとともに、少しでも高い目標を持って挑戦する生徒の育成と実績を作ることが課題である。 ②総合学科の特色から様々な進路先を希望する生徒に対し、体験メニューや学習の機会の提供と、補習や外部指導者等を活用したフォロー体制を確立し、粘り強い指導を実施していく必要がある。
4	<b>【現状】</b> 年間を通して本校の特徴を地域・保護者・中学校等に積極的に発信しているが、全体としては不十分である <b>【課題】</b> 地域から更に期待され信頼される学校づくりに向け、情報発信の強化と交流や連携活動等の充実を進める必要がある	信頼され期待に応える学校づくりの推進	① 100周年に向けての実行委員会の開催 ② ホームページの迅速な更新と積極的な情報発信 ③ 異校種との連携、交流の充実 ④ 学校説明会、高校見学会等による学校理解の推進 ⑤ 社会貢献活動の推進	① 委員会において具体的な内容が決定され、実行されたか ② ホームページ閲覧数の対前年度比5%増と更新状況数 ③ 異校種間連携延べ12日以上 ④ 説明会等への参加人数の前年度との増減 ⑤ ボランティア活動、地域貢献活動への参加者の前年度との増減	地域から信頼される学校づくりに向け計画的に取組むことができた。 ①100周年に向け実行委員会を3回開催し、着々と準備が進められている。(3/22現在) ②システムの不具合もあり閲覧数がしっかりと把握できず、更新回数は例年並みであった。 ③異校種間連携は22回実施した。 ④部活動体験を充実させたが、全体的な参加者は前年度より若干減少した。 ⑤毎年、例年と同数かそれ以上の希望者があり、社会に貢献したいという生徒が継続して出ている。	A	①100周年に向け、各運営部会の役割を明確化し、連携を密にしながら実践する。 ②閲覧数の把握をしっかりと行うとともに、魅力あるHPにしていく。 ③異校種間連携を引続きしっかりと行い、地域への存在感を更に高めていく。 ④体験内容や講座数を改良し、多くの中学生が参加できる説明会にしていく。 ⑤多くの生徒が参加できるよう、例年通りの活動実施に向け、運営資金を工面する必要がある。

学校関係者評価
実施日 平成31年 2月14日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果を見ると、授業に関する先生方の自己評価が厳しいと感じる。授業参観した際、落ち着いた雰囲気や授業が行われており、もう少し指導力に自信を持ってよいのではないか。</li> <li>農業は日進月歩で技術が進んでおり、そのような時代背景を考えると、授業でもA1などの最新技術を取り入れるなどして興味を持たせたりしながら、学ぶ意欲を持たせるべきではないか。</li> <li>いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに向け、引き続き教職員一丸となって取り組んでいただきたい。</li> <li>心の悩みを持つ生徒や様々な問題を抱える生徒に対して、教育相談の視点を持ちながら、共通理解を図って引き続き取り組んでほしい。</li> <li>就職率が高いのは全国的な傾向なのか、それとも今年度の本校の特徴なのかどうか。本校の就職希望者のうち第1回目の就職試験で約9割が内定を獲得しているという事実は素晴らしいことである。</li> <li>首都圏の大学では文科省からの指示で募集定員を減らしたり据え置いたりしている大学が出てきている。最新情報を的確にキャッチし、生徒に還元していただきたい。</li> <li>近隣中学校との連携も含め、引き続き地域との交流や地域貢献に積極的に取り組んでもらいたい。</li> <li>部活動でも中学校との連携を更に強化して取り組んでほしい。</li> <li>中学生に聞くと親や先輩方の本校への評価が高いということで、その影響から本校を志望する者が多いようである。このように周囲から評価が得られているのは良いことだと思う。</li> </ul>